

本報告書は、秦野商工会議所経営発達支援計画の事業実施について秦野商工会議所が作成した「経営発達支援計画実施事業報告書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）」に基づき外部専門家委員として報告書にまとめたものである。

1. 総合評価

2024年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が第5類に位置づけされてから2年経ち、イベントや事業者支援も計画通り実施され、世の中が通常運転にほぼ戻ったと考えられる。5年計画のうち、折り返しの3年目を迎える秦野商工会議所経営発達支援計画実施事業の評価を総括的に整理すれば、下表の自己評価の通り、ほぼ目標をクリアしており、その成果は評価できる。

表1. 自己評価一覧表

数値目標を達成できた (A 基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○需要動向調査に関すること ○経営状況の分析に関すること ○事業計画策定支援に関すること ○事業計画策定後の実施支援に関すること ○新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること ○経営指導員の資質向上等に関すること
数値目標を概ね達成できた (B 基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の経済動向調査に関すること
数値目標を半分程度しか達成できていない (C 基準)	
目標をほとんど達成できなかった (D 基準)	

2. 事業別にみた評価

(1) 地域の経済動向調査に関すること

景況調査において、下期分から事業者がより手軽に回答できるよう、二次元バーコードも併用され、回収率が上がったことは評価できる。特にネット回収率は上期と比べて約4倍の回収率となっている。一方、FAXで送付、回収という従来のやり方になっており、メールを活用されると、さらに回収率は上がると思われる。項目においては、過去との比較をしやすくするために固定していると思われるが、人手不足や価格転嫁など句の内容を入れると事業者にとって有益な情報となると考えられる。

国が提供するビッグデータ「RESAS」(地域経済分析システム)の活用は事業者の進む方向を示すもので有益である。一方、調査内容によっては数年に1度のものもあり、自治体が公表するデータを併用することで、タイムリーな情報活用につながる。

(2) 需要動向調査に関すること

新商品開発サポートは目標数値をほぼ達成できたことは評価できる。ステップアップ経営塾から続く伴走支援として、非常に効果の高い取り組みと言える。簡単ではない新商品開発をサポートすることは、事業者にとっては心強い限りである。今後は開発だけでなく、商品化、販売方法について事業者自身に考えていただき、そこをフォローする取り組みを行うことで、事業者満足度はさらに高まるものと考えられる。

(3) 経営状況の分析に関すること

個人事業主の方々への確定申告支援事業は、実際に事業者からお話を聞くことができる貴重な場である。事業者の感じている課題は決算書に表れていることも多い中で、定量分析で経営状況が見える化することは事業者にとっての安心材料にもなる。経営状況の分析セミナーである「ステップアップ経営塾」に参加いただくことで、課題解決に向けた方向性を示し、より効果ある伴走支援につながると思われる。

(4) 事業計画策定支援に関すること

セミナー実施や事業計画書策定については概ね目標値をクリアしており、評価できる。DXセミナーについては、DXの定義が不明確で求めていることが事業者1人ひとりで異なるため、個別相談会開催がより事業者のニーズに応えるものと考えられる。ステップアップ経営塾は単にセミナーを行うだけでなく、その後の伴走支援につなげることは、セミナー本来の目的に合致した取り組みと言える。開業サポートセミナーは、今後創業を考えている方、創業間もない方、いずれも今後不安を抱えるの方々への方向性を示すものとして、勇気づけられるものと考えられる。一方、これから創業の方と既に創業されている方では求めるものに違いがあると思われ、セミナーを分けて実施することも検討されたい。

(5) 事業計画策定後の実施支援に関すること

事業計画策定後の実施支援（頻度）が増加したことは評価できる。売上増加事業者数や利益2%以上増加の事業者数が目標数値に達しなかったことは残念ではあるが、昨年度と比べると大幅な増加となっていることは取り組んできた成果が出ていると考えられる。フォロー回数が増えたことで、その分、密な支援ができたと思われる。材料価格や人件費の高騰が続く中で、以前より利益が出にくい状況にはあり、当所の役割は今まで以上に重要であると思われる。

(6) 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

コロナ明け2年目となり、地域の事業者が更なる成長、発展のためにイベントや展示会出展を求め中、当所で側面から支援することは素晴らしい取り組みと言える。

はだの食べ歩きグルメフェスティバルは今年度第9回を迎え、DX化としてデジタルスタンプラリーを実施したことは評価できる。開催月をたばこ祭りが行われる9月から10月へ変更したにも関わらず、目標数値をクリアしていることは、それだけ地域の方々がこのイベントに寄せる期待が大きいことを意味している。

テクニカルショウヨコハマへの出展支援では、出展事業者数や面談件数が減少したことは残念であるが、成約件数が増加したことは評価できる。出展事業者数は今回2者減少したので、その理由も探ったうえで、次年度は目標の15者に導いていただきたい。

ザ・ビジネスモールの登録支援は目標に届かず残念であった。さらには支援事業者数と成約件数が減少していることは気がかりである。知らない事業者も一定数いると思われる、更なる認知度向上が求められる。

(7) 経営指導員の資質向上等に関すること

事業者の方向性を示す経営指導員が、知識のブラッシュアップのために多くの研修に参加していることは評価できる。その前向きな取り組みが事業者からの信頼を勝ち取り、当所の発展につながっていくと考えられる。

地域通貨（OMOTAN コイン）がスタートし、地域経済の活性化につながるものと期待されている。ただ課題もあり、次年度の取り組みが注目される。今まで以上に市や商店街連合会との連携を強くすること、そして市民の理解向上と購買意欲向上の刺激策が事業者にとってのメリットにつながると思われる。

以上